

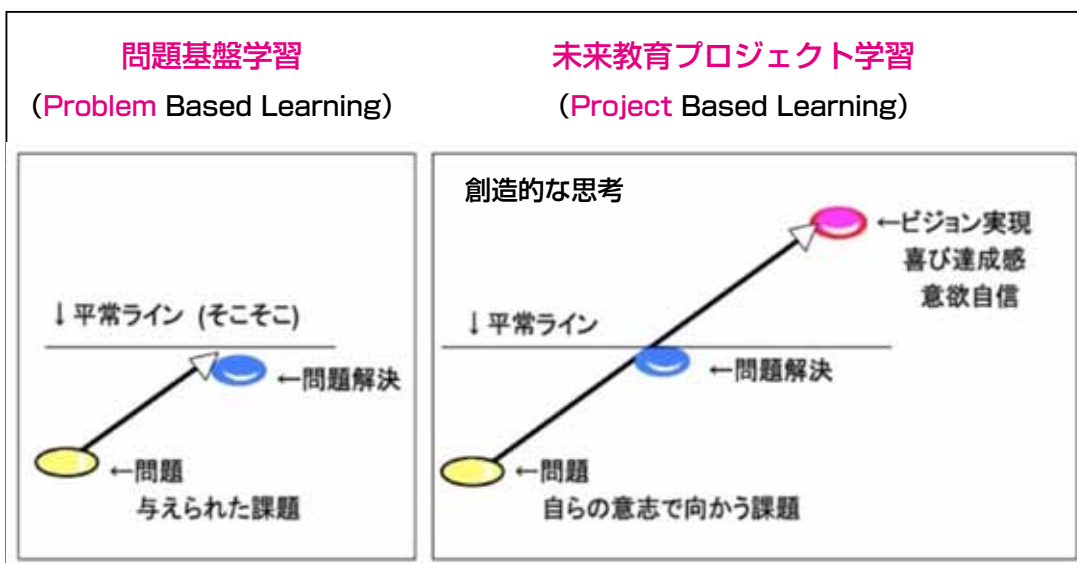
アクティブ・ラーニングを超えて ～自分で自分を成長させる次世代教育～

1w-1.2.3

理念・手法

Archiect 未来教育クリエイター / 鈴木敏恵

- プロジェクト学習
- 高機能ポートフォリオ
- 対話コーチング



与えられた課題から、自ら意志ある課題発見はビジョンの存在にあり！

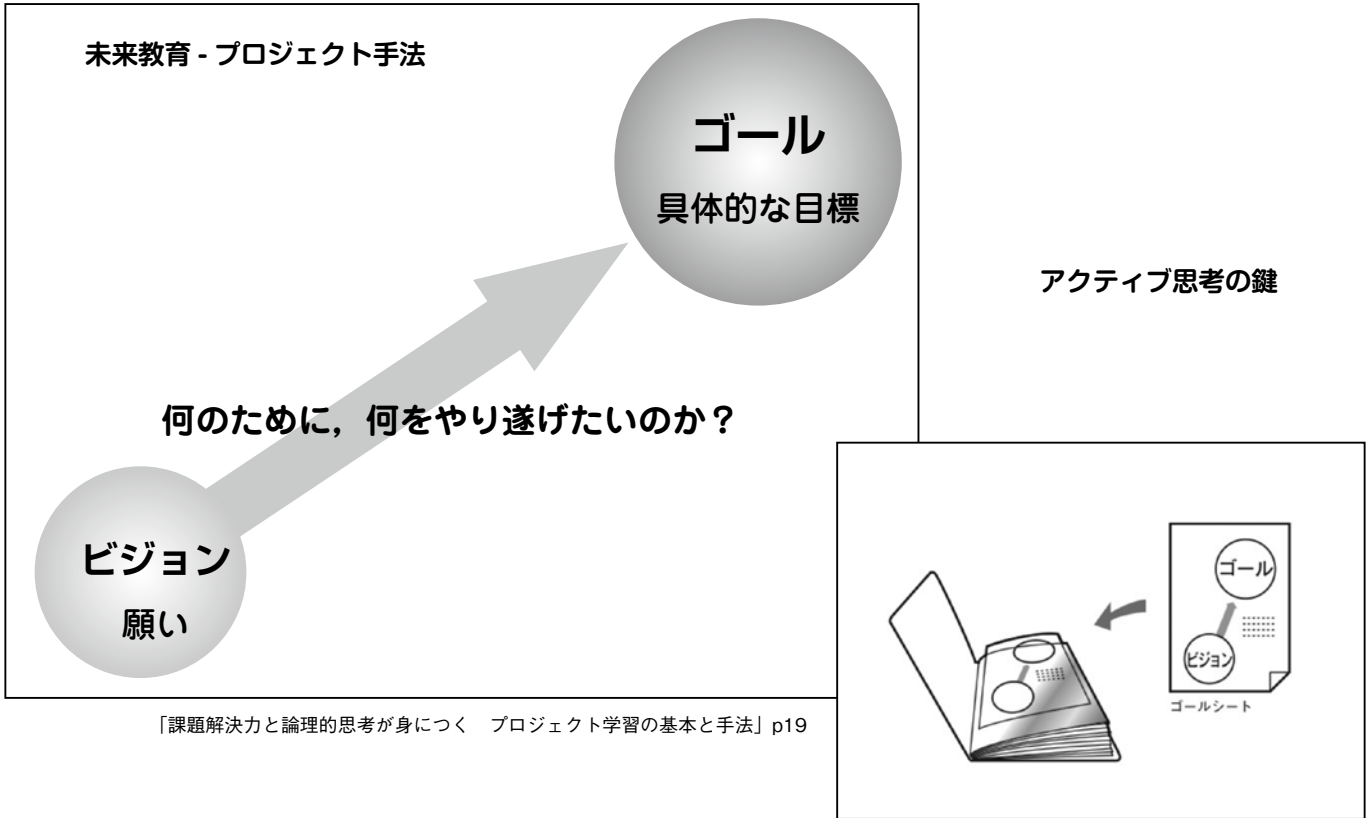
「課題解決力と論理的思考が身につく プロジェクト学習の基本と手法」 p45

出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。
教育機関で使用される場合は、必ず出典 [『創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015』 論文 鈴木敏恵] を明記してください。

プロジェクト学習における「目標」の考え方

プロジェクトとは、ビジョンを描き、ゴール（目標）の実現へ向かうこと、夢を現実にカタチにすることです。

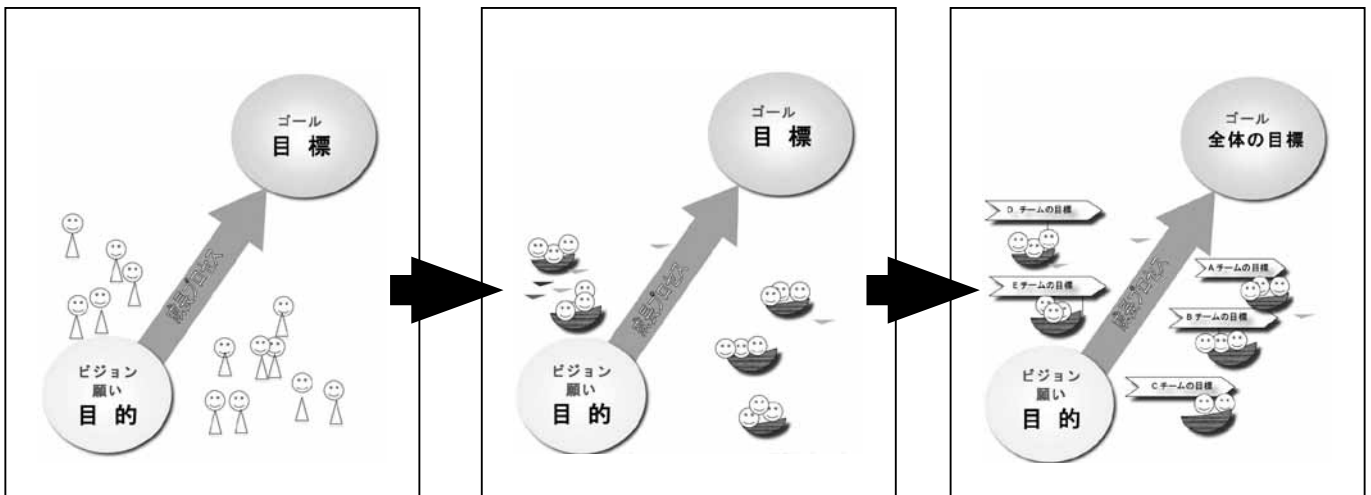
■プロジェクト学習とは、目的（ビジョン）と目標（ゴール）を明確にしてむかう学び。



■プロジェクトチーム

夢は一人では叶いません。同じ願いや課題の人でチームを作り向かいます。

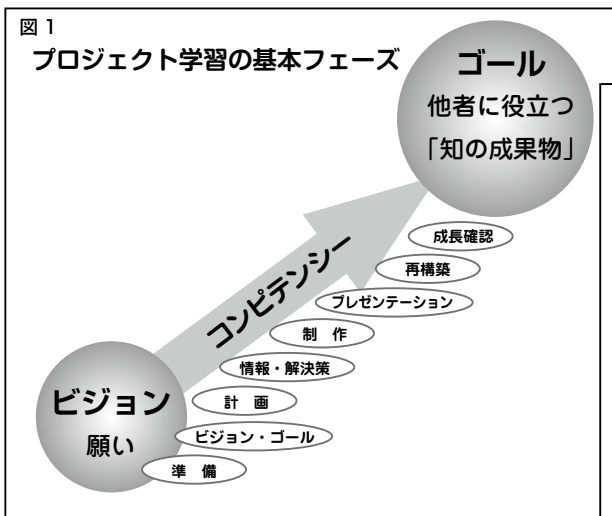
一人ひとりの得意や資質を活かしチームワークで向かいます。



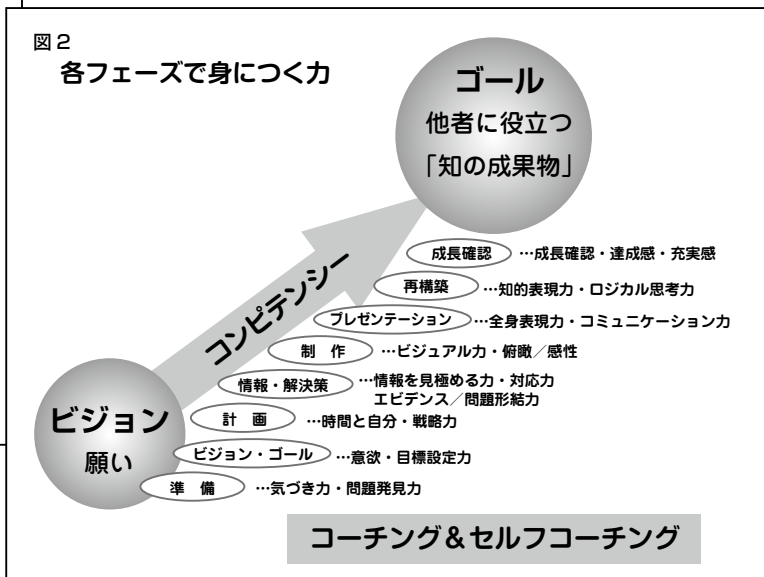
出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。

教育機関で使用される場合は、必ず出典 [『創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015』論文 鈴木敏恵] を明記してください。

プロジェクト学習の基本フェーズの存在と重要性



「課題解決力と論理的思考が身につく プロジェクト学習の基本と手法」 p21 を改編



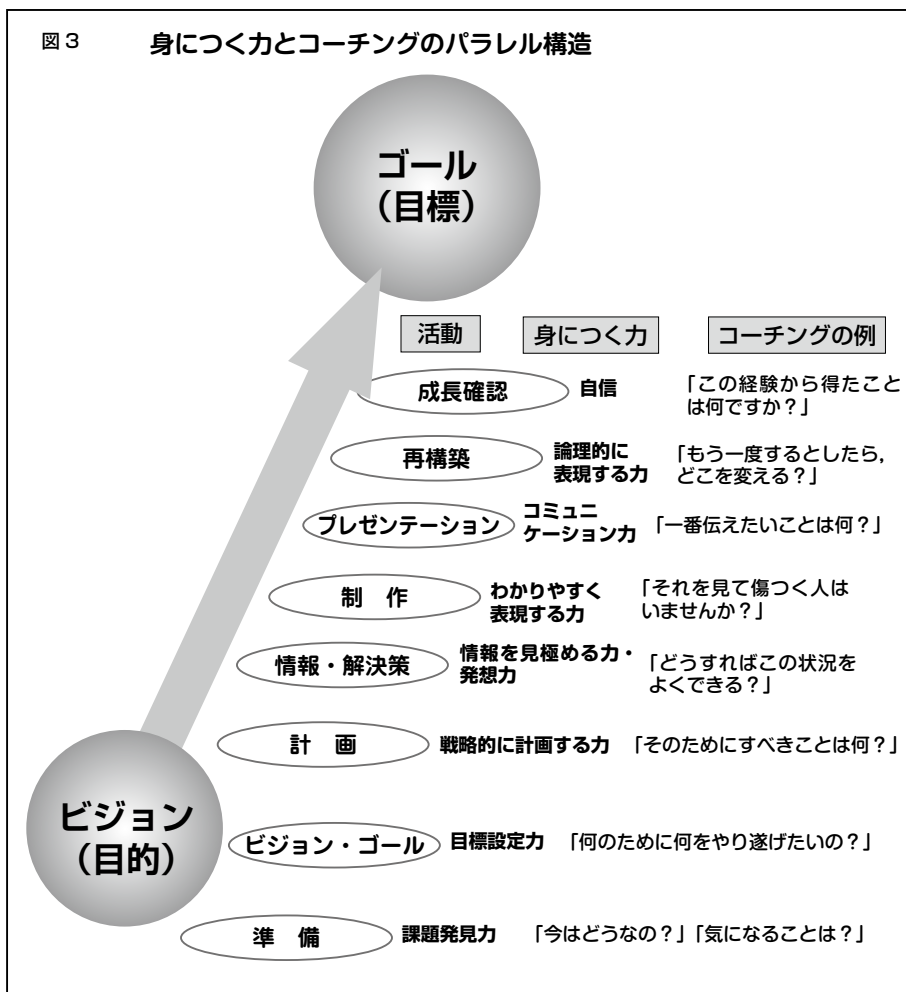
「課題解決力と論理的思考が身につく プロジェクト学習の基本と手法」 p22 を改編

活動あって成長なしになっていませんか？

「調べ学習」「グループ活動」「アクティブ○○」は、活動の名前。身につけたい力のために活動がある。

理論展開

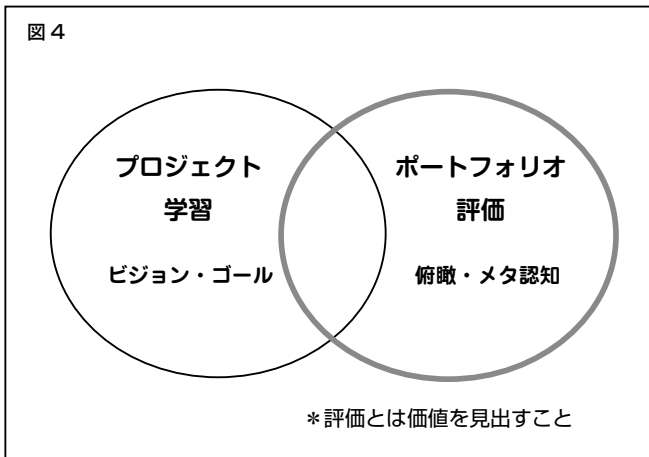
- 基本フェーズで次が見える
- 活動は、クリアカットに行う
- 知識は、トータルな積み重ね
- 活動が明確なので的確なコーチングできる
- 確かなフィードバックができる (1w-0 参照)



「課題解決力と論理的思考が身につく プロジェクト学習の基本と手法」 p23 を改編

プロジェクト学習とポートフォリオは両輪

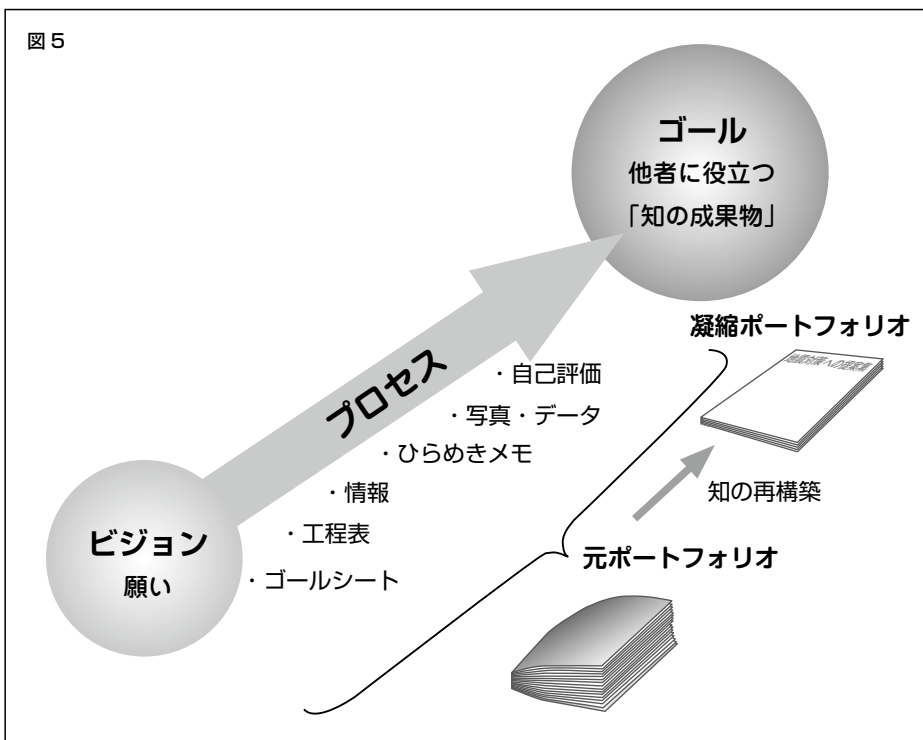
■ 設計思想…次世代教育の「成長と評価」をかなえる



理論展開

- アクティブになるには目標の存在が要る
- 成長を見出すために評価が要る
- 目標と成果を照らし合わせて評価する
- 評価とは査定でも点数づけでもない
- 評価とは価値を見出すこと
- 結果ではなくプロセスを評価する
- プロセスを評価すつためにポートフォリオが必須

■ 教育手法…プロジェクト学習とポートフォリオの関係



理論

ゴールへ向かうプロセスで手にいれた情報や活動などを「元ポートフォリオ」へ入れていきます。最後に元ポートフォリオを再構築して「凝縮ポートフォリオ」を生み出します。

「課題解決力と論理的思考が身につく プロジェクト学習の基本と手法」 p24 を改編

- ポートフォリオは目標へ向かう思考、情報、行動が一元化されたファイル
- プロジェクトのゴールは他者に役立つ「知の成果物」を生み上げる
- ポートフォリオには、集めた情報、ひらめき、アイディア、根拠などを入れる
- リフレクションにポートフォリオを活かし根拠ある振り返りで成長する

実践のための 理論 1

次世代カリキュラムモデル

教科・情報をプロジェクト学習で統合

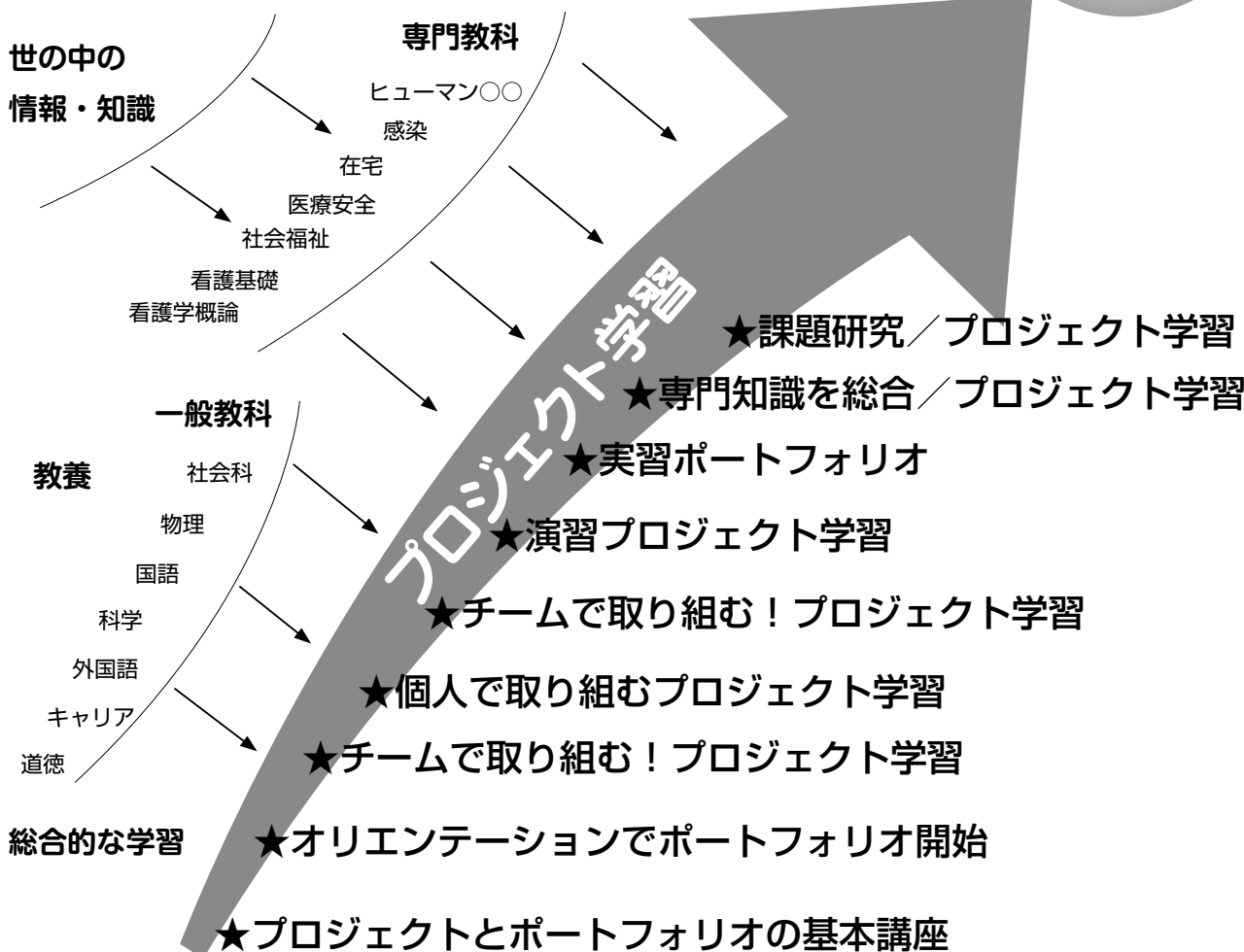
構想デザイン 鈴木敏恵

設計思想と理論展開 1

- (1) 情報、知識、専門教科はプロジェクト学習の要素・部材
- (2) プロジェクト学習：自分の考えで知識・情報を統合、構築
- (3) 教科もプロジェクト学習導入 (1w-0-2p 参照)

ゴール (目標)

看護師国家試験に
合格し、
看護師になる



ビジョン (目的)

つらい人を
助けられるように
なりたい

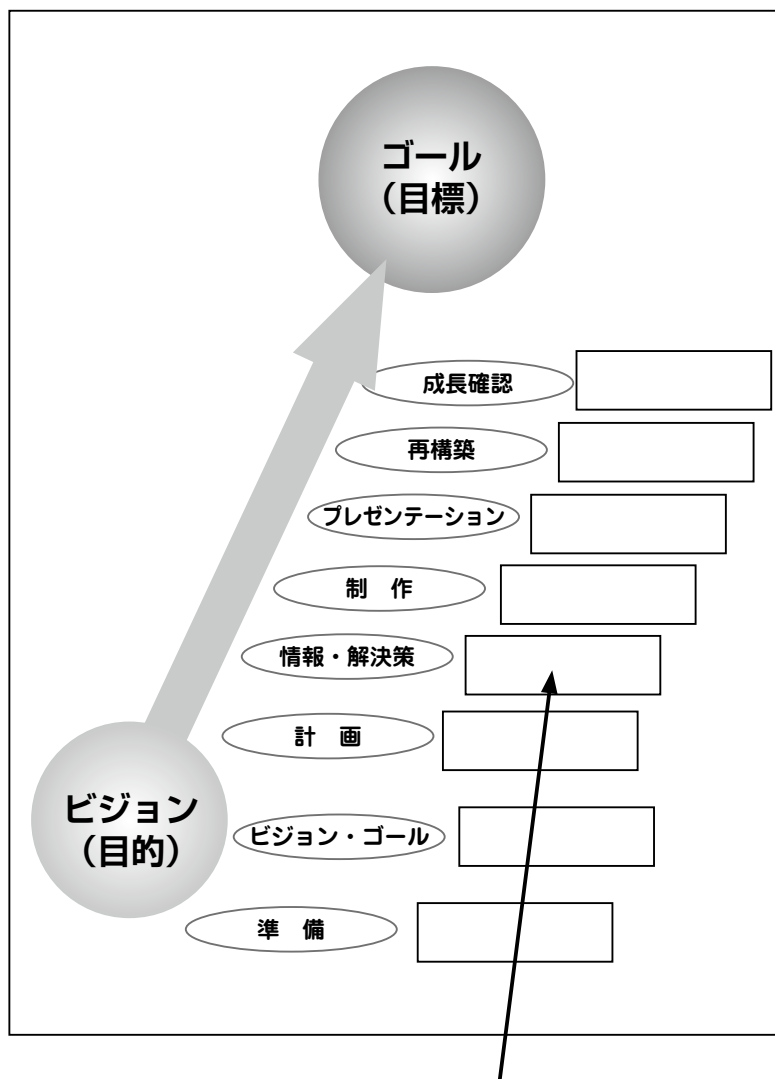
実践のための プロジェクト学習で「身につく力」を焦点化 理論 2

～プロジェクト学習による授業計画設計～

構想デザイン 鈴木敏恵

設計思想と理論展開 2

- (1) プロジェクト学習は4つのカテゴリー修得 (3W)
- (2) プロジェクト学習のフェーズで「身につける力」が明確に異なることを認識する (右図)
- (3) プロジェクト学習の経験の有無や学年、状況などを加味して、各フェーズにおける「身につけたい力」を絞り込んでおく。(下図)



各フェーズで「身につける力」
を書き明確にする (3w 参照)

プロジェクト学習で「身につく力」	
準備	<input type="checkbox"/> 課題発見力 <input type="checkbox"/> 気づく力 <input type="checkbox"/> 観察する力 <input type="checkbox"/> 状況をつかむ力 <input type="checkbox"/> 現実から問題を見出す力 <input type="checkbox"/> 社会意識 <input type="checkbox"/> 俯瞰する力
ゴール・ビジョン	<input type="checkbox"/> 目標を設定する力 <input type="checkbox"/> ありたい状態／ビジョンを描く力 <input type="checkbox"/> 現実に主体的にかかわる力 <input type="checkbox"/> やりとげる意志 <input type="checkbox"/> 前向きな姿勢
計画	<input type="checkbox"/> すべきことをイメージする力 <input type="checkbox"/> 優先順位を決める力 <input type="checkbox"/> 時間を的確に配分する力 <input type="checkbox"/> 戦略的に計画する力
情報・解決策	<input type="checkbox"/> 根拠ある情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> 情報を見極める力 <input type="checkbox"/> 分析する力 <input type="checkbox"/> 比較する力 <input type="checkbox"/> 礼儀・礼節 <input type="checkbox"/> 多面的にものを見る力 <input type="checkbox"/> 目の前の事態に対応する力
制作	<input type="checkbox"/> わかりやすく表現する力 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択する力 <input type="checkbox"/> 図、表、グラフを適切に使う力 <input type="checkbox"/> 概念図等を使い端的で簡潔に表現する力
プレゼン	<input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> ノンバーバルな表現力 <input type="checkbox"/> 比喻等でわかりやすく表現する力 <input type="checkbox"/> 根拠をもとに説明する力 <input type="checkbox"/> 聞き手の思いや理解を推察して話す力 <input type="checkbox"/> 他者のプレゼンを評価する力 <input type="checkbox"/> 他者のプレゼンから学びとる力
再構築	<input type="checkbox"/> 論理的に表現する力 <input type="checkbox"/> 根拠に基づいて結論を導く力 <input type="checkbox"/> 適切に項目立てし、見出しを立てる力 <input type="checkbox"/> 的確で簡潔な文章を書く力 <input type="checkbox"/> 試行錯誤しつつよりよいものを生み出そうとする姿勢
成長確認	<input type="checkbox"/> 成長や成果を評価する力 <input type="checkbox"/> 自己有用感 <input type="checkbox"/> 自尊感情 <input type="checkbox"/> より成長しようとする意欲

実践のための 理論 3 「専門知」と「新・修得知（普遍知）」

～どんな力を身につけるのか・自覚と再現～

構想デザイン 鈴木敏恵

設計思想と理論展開 3

- (1) プロジェクト学習をすることが目的ではない
- (2) 新しい修得知（普遍知）を身につけるためにプロジェクト学習手法を導入する。
(一人の人間として成長するために、人間としての可能性を顕在化させるために)
- (3) プロジェクト学習のシラバスには、今回のプロジェクト学習ではどんな力を身につけたいのか「新修得知」と「専門知」を明確にする必要がある。
- 4. 教育にはねらい（成長目標）がある、目標があり評価の観点をもてる。

プロジェクトの題材で「身につく力」

食・健康についての知識

- 『むし歯ゼロプロジェクト』
- 『朝から元気！健康プロジェクト』

防災・地域についての知識

- 『こうすれば助かる！地震対策知恵集』
- 『地元商店街活性化プロジェクト』
- 『地域の民話継承プロジェクト』

生活・仕事・国際についての知識

- 『身近にできる国際貢献プロジェクト』
- 『新人がアクティブになるポートフォリオ活用！』

プロジェクト学習そのもので「身につく力」

- ビジョンを描く感性
- 課題発見力
- 目標設定力
- 計画を立てる戦略力
- クリティカルシンキング
- 必要な情報を獲得する力
- 課題解決力
- 事態に対応できる力
- ノンバーバル表現力
- 論理的思考力
- 自分を客観的に見る力
- リフレクション・リフレーミング
- etc...



ポートフォリオの機能・活用・評価

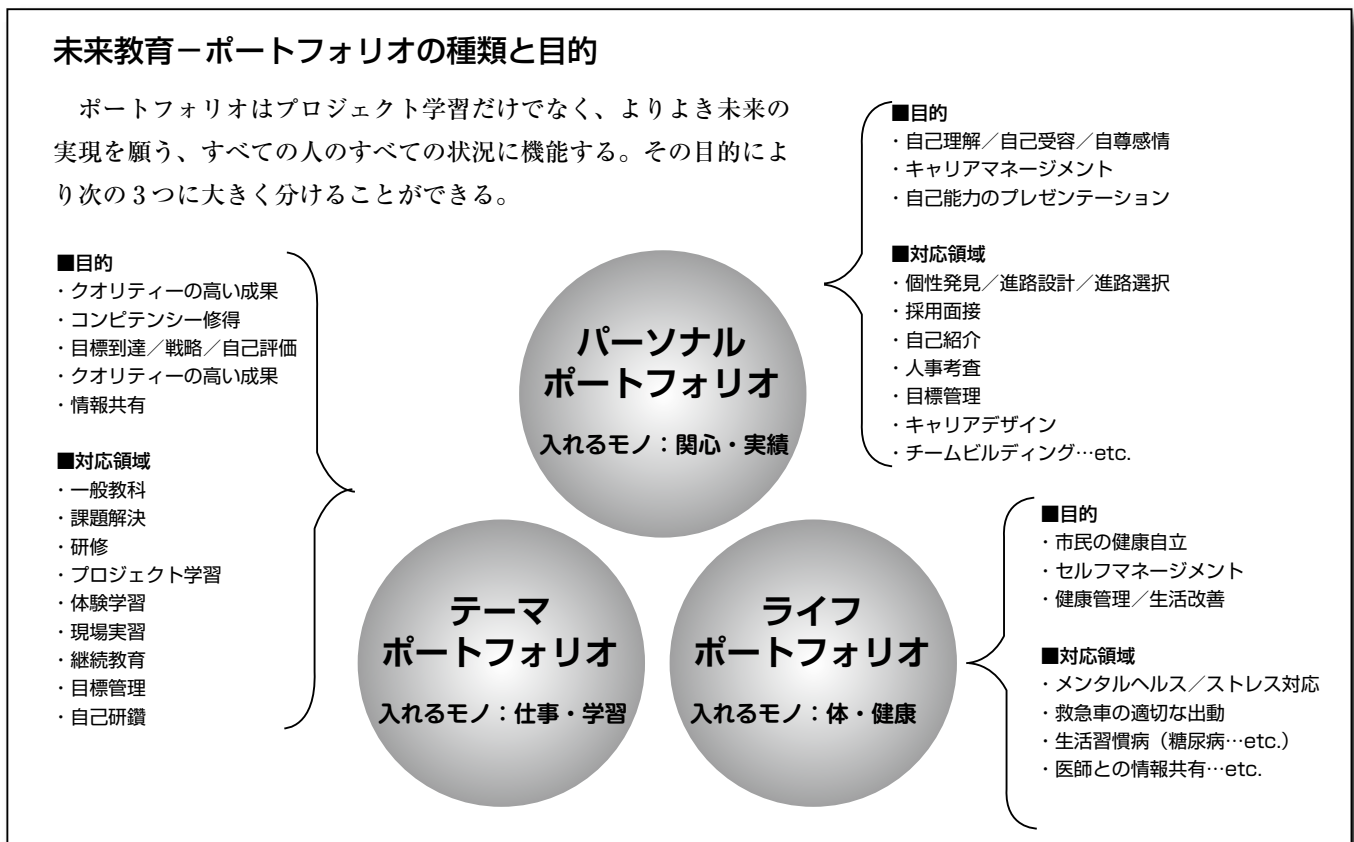
■ ポートフォリオとは

ポートフォリオとは、その人自身がこれまでの「学習歴」や「活動歴」「実績歴」などをファイルしたもの。それは紙ばさみや建築家などがもっている作品集ファイルを意味します。バラバラの情報を一元化するもの（その概念）。学習や仕事のプロセス全体が俯瞰して見えるファイル。

■ ポートフォリオの機能

- a 「学びのセルフマネジメント」ができる
- b 多面的な評価ができる
- c 成果と成長が見え（可視化）「学びのモチベーション」がアップする
- d 自尊感情が高まる・自分に自信がもてる
- e テストなどでは見えない「コンピテンシー評価」ができる
- f 「正確なフィードバック」が出来る
- g 「適切なコーチング」で成長支援ができる
- h 「思考プロセス」を追うことができる

■ ポートフォリオ3つの種類と目的



「ポートフォリオ」と示してあるものは、特記なき限り「テーマポートフォリオ」をさす。

©2006 鈴木敏恵の未来教育プロジェクト

対話コーチング

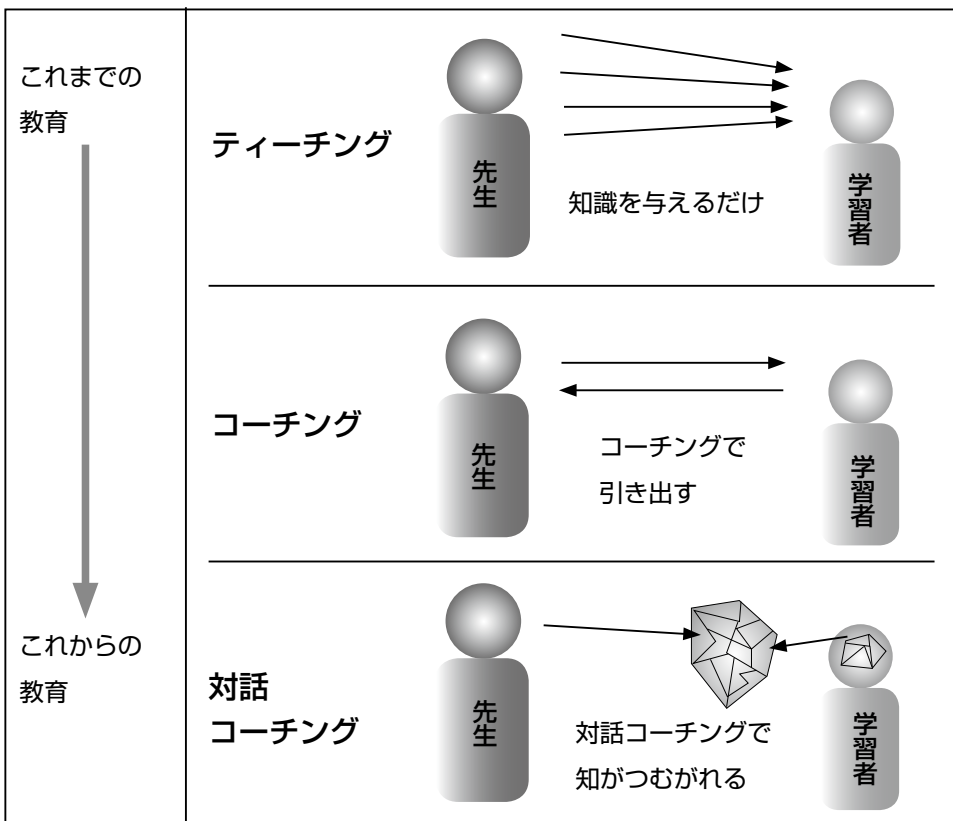
■ コーチングとは



人が本来もっている、考える力や気づく力を引き出す手法。その人の目標への到達するために有効な方法や気づきを引き出す促し。そのための対話や問いかけの手法。

出典：「目標管理はポートで成功する！」鈴木敏恵

■ 対話コーチングとは



対話とは、思索や価値観を互いに交わすもの。互いに気づきや世界観を広げてくれる。そこには互いに与えるものがある、対話には互いへの敬意が必要です。

教師は対話コーチングで「思考プロセス」を追う

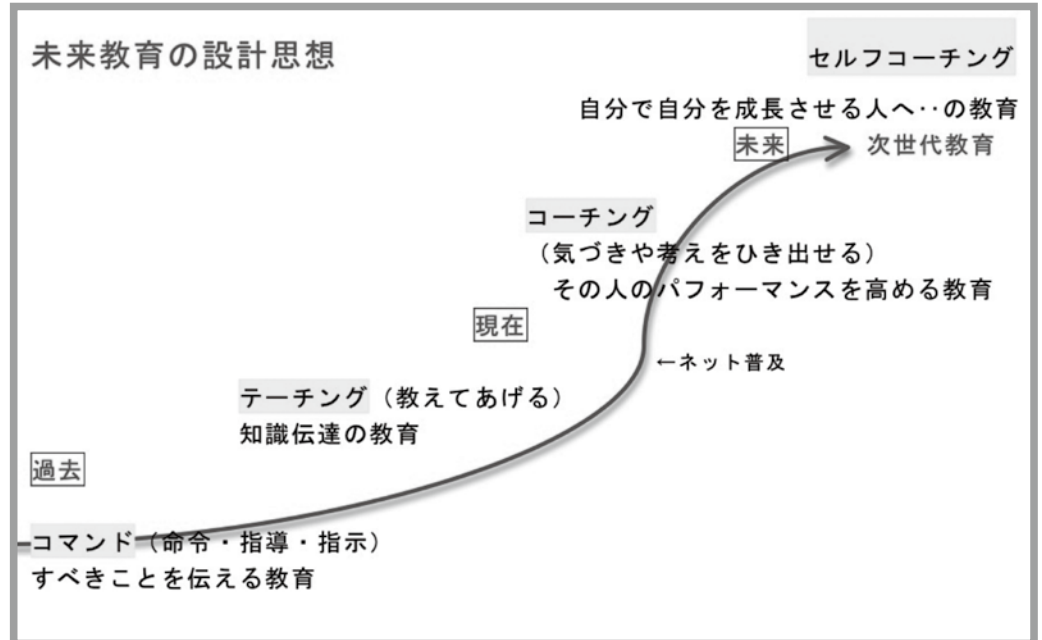
● 価値ある対話を成り立たせるもの

- 敬意 … 対等、どちらも相手の存在や精神に敬意を感じている
- 提供 … 対話により、相手へ役立つ考え方、見方など惜しみなく提供
- 共有 … 対話により、思考や情報や方法、知識などを互いにもてる
- 価値 … 対話により、大切なこと、価値あることを見出す、創発する

自己対話／セルフコーチングできる人へ

教師や指導者が求めるものは、自分が”教え上手”になることでなく…どうしたら目の前の学習者が“自分で自分を成長させる人”になるだろうとかクリエイティブな工夫ができる人になること

教育の進化、
コマンドから
テーチングへ。
テーチングから
コーチングへ、
そして自分で自分を
客観的にみて
セルフコーチング
できる人へ……



デザイン 鈴木敏恵

◎ セルフコーチング／自己との対話

深く考えるためには、真摯な自己対話が欠かせません。ここにリフレクションやセルフコーチングが効果をもたらします。自分のなかに、高い次元の自分（高次の自分）をもち自分の考えていることやふるまいを客観的にみて、自らがよくなるためのコーチングをします。学びつづける人になる、これが教育のめざすところです。そのために「内在する自分」と対話します。

■ セルフコーチング

- この経験から得たことはなんですか？
- この時間で成長したことは何だと思う？
- 何を学びましたか？
- うまくいったことは何？
- なんてうまくいったんだろう？
- もう一回するとしたら？
- 前より変わったところは？
- この経験で身についた力は？
- その力は何に使えますか？